



森林の希少種を保全するために

はじめに

山梨県有林が取得している FSC 森林管理認証は、環境保全の点から見ても適切で、社会的な利益にかなない、経済的にも継続可能な森林管理のためのものです。

森林の生物多様性保全を考える上で、希少種を保全することには重要な意味があります。希少種を適切に管理しながら、森林管理を実施するためには、まず、どのような種が希少種なのかを知る必要があります。さらに、そのような希少種にはどのような特徴があり、どのような場所に生育・生息しているのかを知ることで、その種を保全しながら森林管理を実施することができます。

そこで、試験研究課題「持続的な生態的森林管理における希少種管理支援ツールの開発」(H25-29)では、特に人工林において生育・生息していると考えられる猛禽類、植物、チョウ類の希少種を中心に、その同定や発見に活用できる支援ツールとして、マニュアルを作成しました。また、山梨県に特徴的に出現する希少種の中で、ヤエガワカンバ、ヤツガタケトウヒについても研究を進めました。

希少種のマニュアル

猛禽類は、生態系の食物連鎖の上位にある種が多く、個体数はもと多くありません。また、その多くは、生態系の健全性を示すと言われています。イヌワシ、クマタカ、オオタカ、サシバについて、専門家から写真提供や、生息地や営巣木の特徴などについての解説を執筆いただき、マニュアルを作成しました。

植物に関しては、当所職員が希少種を発見した際、位置の記録や写真の撮影を実施し、県内での生育地などの解説を加え、30 種について掲載しマニュアルを作成しました。

これら猛禽類、植物のマニュアルは、関係者への配布とともに当所のウェブサイトにて公開しています。

チョウ類に関しては、専門家および当所職員を中心に、チョウの写真撮影し、県内での生育地などの解説を加え、22 種についてマニュアルに掲載します。また、食草や蜜源となる植物種の写真も加えています。これは、その植物種が生育していることはそれらを食草や蜜源とするチョウが潜在的に生息する可能性があることに留意してもらうことをねらっています。

2018年3月には、山梨県での最新の希少種の情報により作成された「2018 山梨県レッドデータブック」が公表されました。チョウ類に関しては、この最新の情報に基づいて修正後、公開することにしていません。



山梨県有林における
森林管理上注意が必要な主要猛禽類

ーイヌワシ・クマタカ・オオタカ・サシバー



平成 27(2015)年 4 月

山梨県森林総合研究所

山梨県有林における 代表的な希少植物種



山梨県森林総合研究所

2017年2月版

ヤエガワカンバが生育する林分の推移

ヤエガワカンバは、北海道と本州中部の内陸部に分布が限られており、山梨県および国の準絶滅危惧種とされています。山梨県では、乙女高原周辺から瑞牆山周辺を経て八ヶ岳周辺まで分布しています。乙女高原近くのヤエガワカンバを含むミズナラ二次林で、この林がどのように変化していくかを2003年から調査しています。

全体の立木密度、胸高断面積合計は、2003年から2008年には増加、2008年から2013年には減少していました。最も優占していたミズナラは、立木密度は減少し胸高断面積合計と平均胸高直径は増加、シラカンバとヤエガワカンバでは、立木密度、胸高断面積合計で減少し平均胸高直径は増加していました。全樹種の立木密度に関して、成長して調査対象となった幹の割合(加入率)と調査期間中に枯死した幹の割合(枯死率)は、2003-2008年では加入率が枯死率を上回り、2008-2013年では枯死率が加入率を上回っていました。両期とも死亡率が加入率を上回っていた樹種は、シラカンバ、ミズナラ、ヤエガワカンバであり、いずれも2008-2013年で枯死率の方が大きく上回っていました。ミズナラの発達とともにヤエガワカンバが衰退していく可能性があるため、更新による新規加入個体の確保や現存する個体の維持等の管理が必要となるかもしれません。

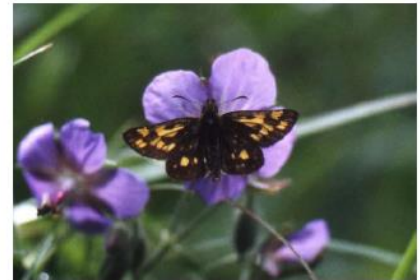
ヤツガタケトウヒが生育する林分の推移

ヤツガタケトウヒは、山梨県と長野県の一部に生育し、国の絶滅危惧IB類、山梨県の絶滅危惧IA類に指定されています。北杜市のヤツガタケトウヒが生育するカラマツ人工林において、2005年に設定された試験地を2017年に再調査しました。その結果、全樹種の幹本数は約半分に、出現樹種が37種から29種に減少していました。これは、ニホンジカの摂食によって、減少したものと考えられました。ヤツガタケトウヒは、2005年に樹皮ガードを取り付けたことで、胸高直径20cm以上は42本から36本の減少にとどまったものの、20cm以下は8本から2本に大きく低下していました。後継樹となる稚樹が全く見られないことから、この林分の行方が懸念されます。

まとめ

「2018 山梨県レッドデータブック」の植物の減少要因としても上げられているように、ニホンジカが希少種に及ぼす影響は小さくありません。山梨県には、多くの希少種が生育・生息しています。山梨県の豊かな自然の象徴でもあるこれらの希少種を適切に保全管理するための研究をこれからも進めていきます。

山梨県有林における 代表的な希少チョウ類



山梨県森林総合研究所



ヤエガワカンバ



ヤツガタケトウヒ

作成：山梨県森林総合研究所
森林研究部 環境科
長池卓男

連絡先
TEL 0556(22)8001 FAX 0556(22)8002
メールアドレス sinsouken@pref.yamanashi.lg.jp